

令和5年度 都城市立夏尾中学校 学校評価

【4段階評価 A(4) そう思う B(3) ややそう思う C(2) あまりそう思わない D(1) そう思わない】

○ 知育

重点目標	目標達成のための 努力実践事項	学校の自己評価コメント（○は職員の考察 ◎は生徒・保護者アンケートから）	自己評定	関係者評定	学校関係者コメント
・ きめ細かな学習の推進による 学力向上 評価 一人一人の学力を保障する。 (成績下降者 0 人)	① 研究授業を通して授業力の向上を図る。 (一人年間 2 回以上)	○ 全職員が年 2 回、「少人数での効果的な指導法」、「ICT を活用」、「子供たちが主役の授業」あり方を意識した研究授業を実施、授業参観視点表を基に事後研究会を行ったことで、ICT 活用方法の共有や新たな課題を見つけるなど、職員の授業力向上につながった。 ◎ 家庭学習の習慣が身に付いていると感じていることに対する A・B 評価は、生徒 75%、保護者が 62%である。習慣が身に付いていない生徒については、家庭でキュービナの活用等を促し、家庭学習の習慣を身に付けさせていく必要がある。	3	3	○ ひとりひとりが大切にされているのを感じる。 ○ 他校に負けない学力をつけてほしい。
	② 個に応じた指導の充実を通して確かな学力の向上を図る。	○ わかる授業、ICT の効果的な活用、授業の中での個別指導など行っており、徐々に結果に表れつつある。家庭学習の在り方など、家庭と連携して学習に取り組ませる手立てを工夫する ◎ 「授業のわかりやすさ」について A・B 評価は、生徒が 91%、保護者が 69%である。生徒は、授業時は理解できたと感じているが、その後学習が定着するまで取り組むことができていないため学力の向上につながっていない。			
	③ 検定資格取得を推進する。(漢字検定・英語検定)	○ 漢字検定年 3 回実施 準 2 級 1 名、3 級 3 名、4 級 2 名、5 級 2 名合格 ○ 英語検定年 3 回実施 準 2 級 1 名、3 級 1 名、4 級 4 名、5 級 1 名合格			
	④ 読解力の向上を目指す。 (「読解の時間」の工夫と、読書量増加への手立て)	○ 図書館サポーターの読み聞かせや本の POP の取組、本に親しむための掲示物等の工夫、くれよん号の利用などもあり、隙間時間に本を読んでいる生徒の姿がよく見られるようになった。 ○ 「読解の時間」の工夫により、全体的に文章を読むスピードがアップしてきている。また 1 年生は語彙力、2 年生が要約力、3 年生は文章作成力が身に付いてきている。 ◎ 読書の取組に対する A・B 評価は、生徒が 88%、保護者が 38%である。生徒の取組は昨年度より上がっている。保護者の評価から考えると、生徒の家庭での読書量は少ないため、家庭への啓発を促す取組の工夫が必要である。			
	⑤ 学力調査結果から授業を検証する。	○ 「全国学力・学習状況調査」の分析結果を基に、本校の「個別の学力向上プラン」とあわせながら、学習面に関する個々への支援の在り方について職員で共通理解を行った。 ○ 読解力と論理的思考（物事を順序立てて考える、理由をつけて説明する）力の育成が必要であり、そのことを意識した授業を行っている。			
	⑥ キャリア教育の視点に立った進路指導を充実する。	○ 将来の夢や目標をもつことについては、生徒に事あるごとに、話をしていることもあり、「全国学力・学習状況調査」の分析結果において 3 年生は高い評価がでている。 ◎ 自分の進路について考えていることに対する A・B 評価は、生徒が 63%、保護者が 84%であった。保護者の評価から、家庭で進路について話題になっていることが伺える。			
《課題と改善点》 ○ 家庭で読書に取り組んでもらうために、ノーメディアデイ等の工夫や取り組みを行い、家庭での読書推進を図っていく。 ○ 生徒の進路意識の向上 100%を目指し、キャリア教育における取組の工夫を行っていく。					

○ 徳育

重点目標	目標達成のための努力 実践事項	学校の自己評価（○は職員の考察 ◎は生徒・保護者アンケートから）	記述	関係者	学校関係者コメント
・命を大切にす る、思いやりの ある生徒の育成 評価 生活意識調査で 一人一人の状態 を把握する （生活に関する 負の内容8%以下）	① 道徳科の授業の充 実を図る。 (授業研究会の実施)	○ 6月の参観日において道徳の授業参観を実施した。授業研究会は実施できなかったが、授業づくりの研修会を夏季休業中に実施し、職員の道徳の授業に対する意識も高まった。 ○ できるだけ多くの意見や価値観に触れさせる授業の工夫が必要である。全校での道徳の授業なども検討していきたい。	3	3	○ 個性を生かしなが ら、人間性も育てて いければいいです ね。
	② 命の大切さを考え る集会を充実させる （月1回、輪番制で 講話を行う。）	○ それぞれの職員が生徒の実態を考慮し、工夫して講話を実施している。生徒も真剣に聞き入り、事後の感想から自分や他の人の命について等、自分事として振り返ることができている。 ◎ 道徳の授業や命の大切さを考える集会を通して、自分や他の人の命について考えていることに対する、A・B評価は生徒が88%、保護者が77%であった。生徒もよく考えており、保護者の評価からも家庭で話題になっていることが伺える。			
	③ 自他を尊重する態 度を育成する。	○ 生徒は互いに声を掛け合い、助け合いながら学校生活を送っている。生徒の言動で指導が必要な場合はその都度指導している。 ◎ スマホやゲームの時間を決めていることに関してのA・B評価は、生徒は63%、保護者が46%であった。スマホの使い方、家庭でのゲームの時間等、学習や生活面に大きく影響するため、生徒への指導、家庭への啓発をしていく必要がある。			
	④ 生徒会活動を通し て主体性を伸ばす。 (あいさつ運動、美化活 動、ボランティア活動 等)	○ 3年生が、伝統を引き継ぎながら各種活動をリードしている。1・2年生はまだ主体的な活動とまではいかないが、生徒会改選を経て、2年生の意識が変化しつつあり、放課後ボランティアで校庭を清掃する生徒も見られ始めている。 ○ 生徒会活動の活性化を図るため、生徒の活動意欲を引き出す仕掛けが必要である。 ◎ あいさつ運動、ボランティア活動、美化活動についてのA・B評価は、生徒は63%であった。活動がマンネリ化していることもあり、生徒自身が自ら率先して活動していると感じていないことが考えられる。			
	⑤ 美しい学校環境づ くりを全員で行う。	○ 5月と11月に美化活動（花壇整備）を実施した。生徒は、植栽にも一生懸命取り組み、花の水やりも責任をもって輪番で行っている。美化活動は現在教師主導で実施しているので、生徒が主体となって計画、運営を行い、自分たちの力で快適な環境をつくる意識をもたせることにより、愛校心を育てることができると考える。 ◎ 日々の清掃活動や美化活動への取組に対する 生徒のA・B評価は82%であった。			
《課題と改善点》 ○ アンケートで「学校に熱中するものがない」と答えた生徒への対応として、「学校が楽しい」と感じる、生徒の活動意欲を引き出す仕掛けを工夫していく。 ○ 情報モラル教育の充実のため、保護者と子供で考えることができる講演会の在り方を工夫・改善しながら、スマホやゲームの使用について家庭へ啓発をしていく。					

○ 体育

重点目標	目標達成のための努力 実践事項	学校の自己評価コメント（○は職員の考察　◎は生徒・保護者アンケートから）	記述	関係者	学校関係者コメント
・ 健康でたく ましい体づくり と食育の推進 評価 食と防災に関す る生徒の意識を 向上させる （A・B 評価 食 75％、防災 80％以上）	① 日常的な体力づく りを行う。 （授業を中心とした体 力づくりの工夫）	○ 体育の授業ではウォーミングアップの時間を長くにとって運動量を増やし、体力の強化を図って いる。また、体育教諭が昼休みは体育館に行き、体を動かしたい生徒と共に運動を行っている。 体力テストでのA判定は4名。 ◎ 学校生活や部活動などを通して体力が向上していることに対する生徒の A・B 評価は 75%、 保護者は 92%である。生徒の評価については、運動を苦手とする生徒と現在運動ができない生 徒がいることが保護者の評価よりやや低く出ていると考えられる。	4	3	○ 体の成長に必要な 食事は、特に中学生 の時期から大事だと 思います。 ○ 体を動かすことが 食の量にも関係して いると思うのでもっ と運動をしてほし い。
	② 望ましい食習慣の 形成を行う。 （食に関する指導の 工夫と家庭と連携し た弁当の日の実施）	○ 5月に栄養教諭を招いて、食に関する学習会を実施した後、2回の弁当の日に向けた事前学習 会を行い、弁当の日を実施した。振り返りのアンケートや生徒へのインタビューから生徒は弁当 の日に積極的に取り組んだことが伺いしれた。また、3年生については9月に西岳地区まちづく り協議会の協力を得て、地域の料理教室を実施した。郷土料理を地域の方々と調理し、共に食す ることにより、食育指導を行うことができた。 ◎ 弁当の日の家庭での取組に対する生徒の A・B 評価は94%、保護者は92%で、家庭で弁当の 日の取組がしっかりできたことが伺える。			
	③ 性教育の充実を図 る。 （年間指導計画の確認 と見直し及び授業実 践）	○ 11月に学校保健委員会と抱き合わせて外部から講師を招いて、性教育を実施。事前授業を養護 教諭その後、外部講師の講話の流れで連携した授業を実施した。平日開催であったため、来年度 は保護者の参加率が高い参観日などに計画し、家庭と連携して性教育の充実を図っていきたい。 ◎ 親子ではなかなか面と向かって話すことが難しいのが性の話。新しい考え方などもあり、親と しても大変勉強になりました。子供が「信頼できる大人」として頼ってもらえるよう、家庭での コミュニケーションも大事なことでと痛感しました。（保護者の感想より）			
	④ 危機管理の徹底及 び防災対応能力を育 成する。（関係機関と の連携による避難訓 練等の実施と工夫）	○ 避難訓練と引き渡し訓練、御池青少年自然の家での訓練と年3回の訓練の実施。11月に都城 市消防局警防救急課の協力を得て、救命講習を行い、AEDの使い方を学び、参加した生徒全員 が実習することができた。「みやざきシェイクアウト」への参加もできた。 ◎ 防災に対する力が身に付いていることに対する生徒の A・B 評価は 87%、家庭で防災につい て話をしていることに対する保護者の A・B 評価は 54%であった。家庭での防災意識を高めら れるよう、学校での取組について通信などで紹介したり、啓発したりしていく必要がある。			
	⑤ 部活動の充実、立腰 指導の充実。	○ 部活動については、生徒は熱心に取り組み、体力の向上が図られている。立腰指導については、 授業開始時に生徒に意識させて常時指導を行っている。 ○ 都城地区秋季体育大会では、女子団体準優勝、男子団体第3位、女子ダブルスでは優勝の結果 を残すことができた。			
《課題と改善点》 ○ 体育の授業や学校の教育活動全体を通して、生徒の運動量をしっかりと確保し、学校全体として生徒の体力向上を推進していく。 ○ 家庭での防災意識の向上を図るため、「避難訓練と引き渡し訓練」の事前事後の取り組みの工夫を行っていく。					

○ 保護者・地域と連携したふるさと教育

重点目標	目標達成のための努力 実践事項	学校の自己評価（○は職員の考察 ◎は生徒・保護者アンケートから）	記評	関係評	学校関係者コメント
・保護者・地域 とともにある、 地域に根ざした 学校の創造 評価 地域との関わり への生徒の意識 を向上させる （A・B 評価 5 0%以上）	① 情報発信のため に各種通信やホーム ページを充実させ る。	○ 学校便りを月 1 回発行、ホームページは随時更新を心掛け、学校での生徒の活動の様子を家庭や地域に発信した。 ○ 宮日新聞への投稿等で積極的に情報発信を行っている。（4 月よりこれまで 3 回新聞に掲載） ◎ 学校からの文書を保護者に提出することについての A・B 評価は生徒が 75%、保護者が 63%である。学校からの文書が保護者に届いていないこともあるので、シグフィーを活用し、100%を目指す。	3	4	○ 少人数を武器に細かな指導ができる環境をさらに有効なものとしてほしい。
	② 地域行事への積極 的な参加・交流によ り相互理解を図る。	○ 梅収穫、GG大会、ふるさと探訪、地域の清掃活動、地域料理教室など地域の方々の協力を得て実施できた。また「学校と地域を結ぶコンサート（村上三弦道）」に、自治公民館長さんの協力で夏尾・御池地区の全家庭に案内を行い、地域の方に学校に足を運んでいただくよい機会となった。今後、生徒と地域の方との交流の在り方の工夫や保護者と地域をつなぐ交流の在り方などを学校運営協議会委員の方々のアイデアも頂きながら、模索していく。 ○ 12 月は門松づくり、地域の方へグリーティングカードを送る取組を小中合同で行う。 ○ 今年度は家庭教育学級を立ち上げ、梅のしそ漬け、ヨガ教室を実施した。12 月には生け花教室も実施予定である。梅のシソ漬けには地域の方の協力を頂いた。今後家庭教育学級に、地域の方を講師としてまた、受講者として参加していただけるよう、実施時期、広報の在り方などを考えていく。 ○ 今年度は御池青少年自然の家のやまびこ祭と学習発表会が重なり、生徒がボランティアとして参加できず残念であった。西岳地区ふれあい文化祭には、社会福祉協議会の方にお声掛けいただき、赤い羽根共同募金のボランティアとして 5 名の生徒が活動できた。今後も地域の行事にボランティアとして参加できるとよい。 ◎ 地域の方々とのコミュニケーションについての A・B 評価は生徒が 63%、保護者が 84%である。生徒、保護者、地域の方をつなぐ取組の工夫をしていく。			
	③ 学校運営協議会を 充実させる。	○ 学校運営協議会委員の方々には、学校運営協議会だけでなく、学校行事にも参加していただき、ご意見やご感想を頂いている。さらに熟議を重ね、学校と地域が互いに本音を言える関係づくり、共生関係を構築し、夏尾中の良さ、夏尾中らしさがでる学校づくりを目指していく。			
《課題と改善点》 ○ 保護者への文書はデジタル通信機能（sigfy 等）を活用し確実に届け、ペーパーレス化を行っていく。 ○ 地域と保護者をつなぐ本校ならではの取組を推進し、地域とのつながりを深めていく。 ○ 「地域」の定義を、夏尾・御池、西岳地区、都城市、宮崎県などを広げ、生徒の認識を変えながら、地域の行事に生徒がボランティアとして参加できるよう、情報を収集し、外部機関や地域の方と連携を図っていく。					